

女性医師支援センター便り



イクボス大賞・イクボス特別賞決まる！

宮城県女性医師支援センター長

宮城県医師会常任理事

高橋克子

現在40歳未満の医師の30%が女性医師であり、30歳未満では35%を占めます。このように増加する女性医師が子育て期に完全に離職することは、周囲の医師にとっても短期的かつ長期的に負担増となります。女性医師本人にとっても日々進歩する医学から取り残される焦燥感と子育ての重圧があります。若手医師を育成する熱意と、仕事と育児を両立しやすい環境整備に努める上司（イクボスという）が不可欠です。こうした配慮に恵まれた部署、あるいは病院には若手医師が集まり、キャリア継続に良好な環境が築かれるため結果として長く勤務する医師が多くなります。患者にとっても安心な医療の提供の場となり、病院収益も向上するという好循環を実現している事例も見聞します。宮城県下からこうした事例を求め顕彰することで、県下の医療勤務環境の一層の向上に貢献するために、この賞を創設しました。

7月末に各病院にお知らせし8月末で締め切り、団体2件、個人2件の応募がありました。9月6日宮城県女性医師支援会議にて十分な審議を行いました。そして9月20日、宮城県医師会常任理事会において下記のとおり承認されました。

イクボス大賞（団体） 独立行政法人国立病院機構仙台医療センター（院長 橋本省 先生）

仙台医療センターは以前より女性医師支援に力を入れ、保育所の設置拡充、夜間保育、病後児保育等をいち早く実現してきた。また、院内の女性医師向けの設備、短時間正規雇用制度なども整備され多くの女性医師が利用している。平成31年度開院予定の新病院においても、恵まれた環境の保育所、管理階のレディースゾーン、隣接した乳児・病後児保育、授乳室などを設置し、女性医師支援をさらに推進している。

イクボス特別賞（個人） 谷川原真吾 先生（仙台赤十字病院 副院長）

仙台赤十字病院では、子育て中の女性医師4名が病棟、外来、手術と偏りなく働いている。チーム医療の中でお互いに協力しあい十分にスキルアップできる体制を作り、24時間院内保育所創設に尽力された。

なお、11月12日（日）当会館において、午後4時から女性医師支援セミナーで、その功績を称え表彰式を開催いたします。「広がれイクボス、イクメンの輪Ⅱ」というテーマで、受賞者の講演とシンポジストの講演があります。多くの参加者をお待ちいたしております。詳細は、後程ホームページに掲載されます。ご覧ください。